

北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第420号 平成24年10月24日

顔の見えない犯罪の怖さ

ネットを通じて引き起こされた今回の事件は、本当の犯人の顔が見えず、しかも、誰でも被害者になり得るという意味で、極めて不気味であり、社会に対する影響も大きいと思われます。

その事件とは、遠隔操作されたパソコンを使用して犯罪予告を行ったとして、神奈川、大阪、福岡及び三重の4人の男性が逮捕され、その後、東京の弁護士などに「自分が真犯人であり、警察の誤認を誘う罠だった」という真犯人と名乗る人物からの犯行声明が出され、最終的には、警察の誤認逮捕という事になったというものです。

事件の構図は、私には殆ど理解できない世界ですが、犯行声明や報道などを整理すると、

・神奈川県のケース

ウェブサイトを閲覧しようとしてクリックすると襲撃予告が自動的に発信される仕組みで、誤認逮捕された男性は、たまたまそのURLをクリックしたために事件に巻き込まれたというものです。

・大阪、福岡、三重のケース

ウイルスに汚染させたパソコンを使い、本人になりすまして犯行予告を行ったというものです。

真犯人は、犯行に使用されたウイルスはトロイというソフトで、自分が一から開発したと述べています。

これまでも、サイバー犯罪といわれているものの中には、

- ・金融機関などのオンライン端末を不正に操作し、他人の口座から自分の口座に預金を移すとか、コンピュータに保存されているホームページのデータを無断で書き換えるといった、コンピュータの情報操作に関する犯罪
- ・電子掲示板に販売広告を掲示し、覚せい剤等違法な物品の販売やインターネットオークションをつうじて代金をだまし取るといった、ネットワークの利用に関する犯罪
- ・他人のID、パスワードを無断で使用するなどして、コンピュータを本人になりすまして不正使用する、不正アクセス行為があり、ネットを通じた犯罪は様々な形を取って繰り返され、かつ、悪質化しています。

インターネットによるコミュニケーションの特徴の一つに匿名性が有りますが、この匿名性を悪用すれば、他人になりすますことはいとも簡単であり、悪意で利用する者にとってこれ程便利なツールはありません。

今回の事件は、私達に大きな教訓を示しています。

一つは、警察による誤認逮捕に問題はなかったかという事です。

大阪のアニメ演出家男性	起訴後釈放
福岡の無職男性	処分保留で釈放
三重の無職男性	処分保留で釈放
神奈川の男子大学生	保護観察処分

今回の事件にかかわる4人は、いずれも犯行を否認しているにもかかわらず、警察には聞き入れてもらえなかったと述べています。4人を犯人にするには不自然な点があったそうですが、それでも逮捕に至ったというのは、ある種の思い込みから抜けられなかったのではないかと思います。

今後、今回の様な冤罪を防ぐためには、「否認したにもかかわらず犯罪者に仕立てられて行ったプロセス」をしっかりと解明し、その結果を国民に明らかにして行く必要があります。

また、真犯人を名乗る人物は、犯行の目的を、「犯行予告で世間を騒がすこと、無実の人を陥れて影でほくそ笑むこと等ではなく、警察・検察を嵌めてやりたかった。醜態を晒させたかったという動機が100%です。なので、ある程度のタイミングで誰かにこの告白を送って、捕まった人たちを助けるつもりでした。」と誠に勝手な事をいっています。

今回の事件によって、警察が誤認逮捕という醜態を晒した事は事実ですが、同時に、日本の社会では、例え誤認逮捕といえ、逮捕されただけでもそれによって受けるダメージは非常に大きく、今回も、逮捕された方々は仕事や日常生活にも大きな影響を受けたに違いありません。

特に、神奈川県男子大学生に至っては、事件後退学しています。例え、誤認逮捕だという事が後で分かったとしても、彼の人生に与えた影響は余りにも大きなものがあります。

真犯人は、無実の人を陥れて影でほくそ笑む事ことではなく、警察を嵌めてやりたかったのだとうそぶいていますが、誰がどのようにいい繕おうとも、真犯人の行った行為は、無関係の人間を巻き込んだ、極めて悪質な愉快犯であり、許されるものではありません。

また、今回の事件を通じて、サイバー犯罪に対する警察の捜査能力が技術的に追いついていないという事も明らかになりました。

今後も発生するであろう新手のサイバー犯罪に対抗していく為には、国家の安全を確保するという国家戦略上の観点からも、人材の養成と態勢の整備に、これまで以上に積極的に取り組んでく必要がある事はいう迄もありません。

(塾頭：吉田 洋一)